

(3) 放流用人工種苗の保菌検査

中城 岳・高村 一成・隅川 和・高月 明

(1) 目的

アユの放流用人工種苗には、天然アユ資源に対する防疫上の観点から、疾病の原因菌を保菌していないことが求められる。そこで、2024年に放流した人工種苗について、細菌性冷水病の原因菌 *Flavobacterium psychrophilum* (以下、*F. psychrophilum*) 及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因菌 *Edwardsiella ictaluri* (以下、*E. ictaluri*) の保菌検査を実施した。

(2) 材料と方法

2024年3月13日、26日、29日及び4月10日に、全生産系統の7池から1池あたり60尾を無作為抽出し、10尾ずつを1ロットとして1池あたり6ロット(1池のみ12ロット)、合計48ロットを対象として保菌検査を実施した。なお、検査手法は「アユ疾病に関する防疫指針(アユ疾病対策協議会, 2011)」に従った。

(3) 結果と考察

保菌検査を実施したロットのいずれからも、*F. psychrophilum* 及び *E. ictaluri* に特異的な遺伝子は検出されなかった。

【引用文献】

アユ疾病対策協議会(2011) アユ疾病に関する防疫指針.